

音源の比較試聴(49)

—モーツァルトの歌劇《ドン・ジョヴァンニ》—

1. 始めに

前報(48)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン 419 635-1

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K. 527

ヘルベルトフォンカラヤン指揮ベルリンフィル

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K. 527

イヴァン・フィッシャー指揮:ブダペスト祝祭管弦楽団

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのカラヤン指揮ベルリンフィル盤は、1985年のデジタル録音で、オーケストラはやや淡泊なところがありますが、定位もよく、ソリストの伸びのある歌唱が

前面にでてきて、映像はないもののステージ感がよく再現されています。

STAGE+のフィッシャー指揮:ブダペスト祝祭管弦楽団の演奏は、STAGE+を楽しむ(350)で報告のとおり、最新の収録での音質が確保され、ソリストのダイナミックな歌唱は、収録環境の残響を伴って自然で明晰であり、リアルなステージ感が再現されました。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤は映像はないものの、定位もしっかりしており、ソリストの歌唱が前面にでてきてステージ感が十分に再現されています。STAGE+は最新の収録であり、ソリストのダイナミックな歌唱は、収録環境の残響を伴って自然で明晰であり、リアルなステージ感が再現されていました。

以上